

日本語教育学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学特論Ⅰ	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	前期集中 その他 連講	
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	小河原 義朗・島崎 薫	前期 水曜日 5講時	
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原 義朗・島崎 薫	後期 水曜日 5講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原 義朗	後期 金曜日 3講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	日本語教育における質的調査 法	2	島崎 薫	後期 木曜日 2講時	
日本語教育学研究演習Ⅰ	言語技能と教育	2	小河原 義朗	前期 金曜日 3講時	
日本語教育学研究演習Ⅱ	実践コミュニティでの学び	2	島崎 薫	前期 火曜日 3講時	
日本語教育学研究実習Ⅰ	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	
日本語教育学研究実習Ⅱ	日本語コースの運営と改善	2	島崎 薫	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM98805, 科目ナンバリング：LJS-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children
- understand and describe the difficulties in life and learning of children
-gain fundamental knowledge of Japanese language teaching for children and be able to support them
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
 3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
 4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
 5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
 6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
 7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
 8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
 9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
 10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
 11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
 12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
 13. 体験の振り返り
 14. 教師の役割
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：
文部科学省 (2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗・島崎 薫

コード：LM13504, 科目ナンバリング：LJS-LIN610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topic Research 1

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第9回：修士課程2年生による結果報告

第10回：修士課程2年生による分析報告

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗・島崎 薫

コード：LM23503, 科目ナンバリング：LJS-LIN611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Topic Research 2

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1)様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2)聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3)各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM25302, 科目ナンバリング：LJS-LIN616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語理解学習過程
2. Course Title (授業題目)：The process of Language learning and understanding
3. 授業の目的と概要：人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.
5. 学習の到達目標：(1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
(2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is
 1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
 2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：）
第1回：イントロダクション
第2回：言語の学習とは
第3回：言語理解学習のメカニズム
第4回：言語の記憶・処理過程
第5回：言語の理解・産出過程
第6回：学習科学
第7回：教材分析（聴解）
第8回：教材作成（聴解）
第9回：模擬授業（聴解）
第10回：授業分析（聴解）
第11回：教材分析（読解）
第12回：教材作成（読解）
第13回：模擬授業（読解）
第14回：授業分析（読解）
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
レポート 50%、授業課題 50%
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM24205, 科目ナンバリング：LJS-LIN617J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における質的調査法
2. Course Title (授業題目)：Qualitative research in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語教育においてよく使われる質的研究の方法を学ぶ。授業の中では、先行研究のまとめ方、問いの立て方、インタビュー、観察といった研究方法について学び、実際に自身の研究計画を作成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the method of qualitative research in the area of Japanese language education. In this course, students will review previous studies, make research questions, get to know research methodologies such as interview and observation. At the end, they will complete their own research proposal.
5. 学習の到達目標：・質的研究法の理論的背景、強みと弱み、倫理的課題を理解した上で、質的研究法を用いた研究計画を立てることができる。
・研究論文の要素、構成、慣習を理解し、論文作成のための基礎的な知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
-Understand theoretical background, strengths/weaknesses and ethical issues of qualitative research and make a research plan by using them
-Gain the fundamental knowledge of elements, structure and custom of research paper.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/5)：イントロダクション、質的研究とは①
第2回 (10/12)：質的研究とは②
第3回 (10/19)：問いを立てる
第4回 (10/26)：先行研究の章の役割
第5回 (11/2)：先行研究の批判的検討①
第6回 (11/9)：インタビュー
第7回 (11/16)：観察
第8回 (11/30)：先行研究の批判的検討②
第9回 (12/7)：研究倫理
第10回 (12/14)：研究方法の検討
第11回 (12/21)：先行研究の批判的検討③
第12回 (1/11)：先行研究の章の検討①
第13回 (1/18)：序章の検討①
第14回 (1/25)：先行研究の章の検討②
第15回 (2/1)：序章の検討②、まとめ
1/4は休講の予定です。そこまでに授業を休講にした場合は、補講として授業を実施します。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終課題（序章・先行研究の章）40%
9. 教科書および参考書：
太田裕子 (2019)『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ -研究計画から論文作成まで-』東京図書。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15302, 科目ナンバリング：LJS-LIN618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語技能と教育

2. Course Title (授業題目) : Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要： 学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：(1) 話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2) 目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completing this course, students will be able to:

1. better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills

2. create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%・課題 50%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM12304, 科目ナンバリング：LJS-LIN619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践コミュニティでの学び
2. Course Title (授業題目)：Learning in Communities of Practice
3. 授業の目的と概要：この授業では、実践コミュニティに関する理論を学び、その理論を使って活動をデザインし、実践する。そしてその実践がどうだったのかを評価、検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will enhance their understanding of theories related to Communities of Practice. The course will also provide them with opportunities to design and conduct activities of language learning based on these theories. At the end of the course, the students will evaluate these activities based on qualitative data.
5. 学習の到達目標：・正統的周辺参加論、実践コミュニティの理論を理解し、説明することができる
・それらの理論を使い、活動をデザインすることができる
・実施した活動がどうだったのかをデータに基づき、評価することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - ・understand Legitimate Peripheral Participation and Communities of Practice
 - ・design and conduct activities by using these theories
 - ・evaluate the activities based on data
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第1回 (4/11)：イントロダクション、社会文化理論から学習をとらえるとは
 - 第2回 (4/18)：正統的周辺参加とは
 - 第3回 (4/25)：実践コミュニティとは
 - 第4回 (5/2)：実践コミュニティに関する実践の検討①
 - 第5回 (5/9)：実践コミュニティに関する実践の検討②
 - 第6回 (5/16)：活動のデザインの検討①
 - 第7回 (5/23)：活動のデザインの検討②
 - 第8回 (5/30)：実践とデータ収集
 - 第9回 (6/6)：実践とデータ収集
 - 第10回 (6/13)：実践とデータ収集
 - 第11回 (6/20)：実践の検討と修正
 - 第12回 (6/27)：実践とデータ収集
 - 第13回 (7/4)：実践とデータ収集
 - 第14回 (7/11)：実践とデータ収集
 - 第15回 (7/18)：まとめ7/25は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。
8. 成績評価方法：
 - 授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
 - 教科書：トムソン木下千尋（編）(2017)『外国語学習の実践コミュニティ：参加する学びを作るしかけ』ココ出版
10. 授業時間外学習：火曜日 17:30-18:30 に実施される会話セッション「みんなのひろば」にて実践をします。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM13310, 科目ナンバリング：LJS-LIN620J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目) : Coordination of a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。前期は日本語コース内でどのような活動ができるのかについての知識やスキルを身につけるとともに、後期に実施するコースのデザインを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will acquire skills in designing and conducting a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In spring semester, students will earn skills and knowledge of how to conduct class activities and design a Japanese language course carried out in the next fall semester.

5. 学習の到達目標：・様々な授業内活動について知る

・目的に合わせた活動やコースをデザインすることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:

・ understand variation of class activities;

・ design a class activity according to purposes

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (4/12)：イントロダクション

第2回 (4/19)：コースデザインとは①

第3回 (4/26)：コースデザインとは②

第4回 (5/10)：多様な授業内活動①

第5回 (5/17)：多様な授業内活動②

第6回 (5/24)：多様な授業内活動③

第7回 (5/31)：授業案の作成①

第8回 (6/7)：授業案の作成②

第9回 (6/14)：授業案の作成③

第10回 (6/21)：授業案の作成④

第11回 (6/28)：実践と振り返り①

第12回 (7/5)：実践と振り返り②

第13回 (7/12)：実践と振り返り③

第14回 (7/19)：実践と振り返り④

第15回 (8/2)：まとめ

5/3は祝日のため休講です。8/7(月)は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

学部生は、日本語教育学専修で開講されている日本語教育学概論、日本語教育学基礎講読をすべて履修し、単位を取得していることがこの実習を履修する条件です。日本語教育学専修以外の学生でこの実習の履修を希望する方は、担当教員まで事前にご相談ください (Email: k.shimasaki@tohoku.ac.jp)。なお、大学院生で日本語教育学専攻分野以外の学生は基本的に履修を認めていません。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23310, 科目ナンバリング：LJS-LIN621J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Coordination and improvement of a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、実施する力を養うことを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through teaching practicums in spring and fall semesters, students will acquire skills in designing a language course for learners' individual needs, readiness and situations. In the fall semester, students will design and carry out a Japanese language course.

5. 学習の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善案を考えることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

・conduct a Japanese language course with other students cooperatively;

・suggest an improvement based on their reflection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/4) : イントロダクション

第2回 (10/11) : コース開講の準備①

第3回 (10/18) : コース開講の準備②

第4回 (10/25) : 模擬授業

第5回 (11/1) : 模擬授業と振り返り

第6回 (11/8) : 模擬授業と振り返り

第7回 (11/15) : 模擬授業と振り返り

第8回 (11/22) : 模擬授業と振り返り

第9回 (11/29) : 模擬授業と振り返り

第10回 (12/6) : 模擬授業と振り返り

第11回 (12/13) : 模擬授業と振り返り

第12回 (12/20) : 振り返り

第13回 (1/10) : コースデザインの評価

第14回 (1/17) : 授業分析

第15回 (1/24) : まとめ

12/27 は金曜日の授業が行われます。

1/31 は授業予備日です。学期中に授業を休講にした場合、補講授業を実施します。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

前期の日本語教育学実習（学部）または日本語教育学研究実習Ⅰ（大学院）を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修の条件です。